

子ども・子育て支援対策調査 特別委員会報告資料

令和8年7月2日

報告事項件名

頁

- 1 令和7年度「あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト（ASMAP）」の
実績及び令和8年度の主な取り組み方針について・・・・・・・・・・ 2

(衛 生 部)

件名	令和7年度「あだちスマイルママ＆エンジェルプロジェクト（ASMAP）」の実績及び令和8年度の主な取り組み方針について																																								
所管部課名	衛生部保健予防課																																								
内 容	「あだちスマイルママ＆エンジェルプロジェクト」（以下、「ASMAP」）の令和7年度実績及び令和8年度の主な取り組み方針について報告する（詳細は P 1 2 ～ 1 5 参照）。																																								
	1 ASMAPの令和7年度事業実績について																																								
	（1）妊娠届出場所の年次推移（図1）																																								
	<table><tr><th>届出場所</th><th>6年度</th><th>7年度</th><th>増 減</th></tr><tr><td>区民事務所</td><td>21.9%</td><td>18.4%</td><td>△3.5P</td></tr><tr><td>保健予防課・保健センター等</td><td>78.1%</td><td>81.6%</td><td>+3.5P</td></tr></table> 保健予防課・保健センター等での届出割合が、3.5ポイント増加した。妊娠届出時に保健師とスマイルママ面接を実施することができ、こども商品券や「あだち出産応援給付金」の申請書もその場で受け取ることができるため、保健予防課や保健センター等に来ていただけるよう案内している。 図1 妊娠届出場所の年次推移 <table><tr><th>年度</th><th>保健予防課</th><th>保健センター等</th><th>区民事務所</th></tr><tr><td>2年度</td><td>30.8%</td><td>29.1%</td><td>40.1%</td></tr><tr><td>3年度</td><td>34.8%</td><td>35.4%</td><td>29.8%</td></tr><tr><td>4年度</td><td>38.8%</td><td>34.2%</td><td>27.0%</td></tr><tr><td>5年度</td><td>41.0%</td><td>34.4%</td><td>24.6%</td></tr><tr><td>6年度</td><td>42.1%</td><td>36.0%</td><td>21.9%</td></tr><tr><td>7年度</td><td>38.7%</td><td>42.9%</td><td>18.4%</td></tr></table>	届出場所	6年度	7年度	増 減	区民事務所	21.9%	18.4%	△3.5P	保健予防課・保健センター等	78.1%	81.6%	+3.5P	年度	保健予防課	保健センター等	区民事務所	2年度	30.8%	29.1%	40.1%	3年度	34.8%	35.4%	29.8%	4年度	38.8%	34.2%	27.0%	5年度	41.0%	34.4%	24.6%	6年度	42.1%	36.0%	21.9%	7年度	38.7%	42.9%	18.4%
	届出場所	6年度	7年度	増 減																																					
区民事務所	21.9%	18.4%	△3.5P																																						
保健予防課・保健センター等	78.1%	81.6%	+3.5P																																						
年度	保健予防課	保健センター等	区民事務所																																						
2年度	30.8%	29.1%	40.1%																																						
3年度	34.8%	35.4%	29.8%																																						
4年度	38.8%	34.2%	27.0%																																						
5年度	41.0%	34.4%	24.6%																																						
6年度	42.1%	36.0%	21.9%																																						
7年度	38.7%	42.9%	18.4%																																						
（2）スマイルママ面接	妊娠届出をした妊婦に対し、保健師等による妊婦全数面接により、妊婦の心身状態・家庭状況等を把握し、適切なケアを行う。面接をした方には、育児パッケージとして「こども商品券」10,000円分を支給している。 面接者数（こども商品券支給件数） 4,823人（98.1%） ※ 令和7年度届出者（転入含む）4,913人に対する令和8年5月末までの対応分 ※ 未面接者90人（1.9%）については、区民事務所に届け出た方などで、いずれも後日予約して面接を実施																																								

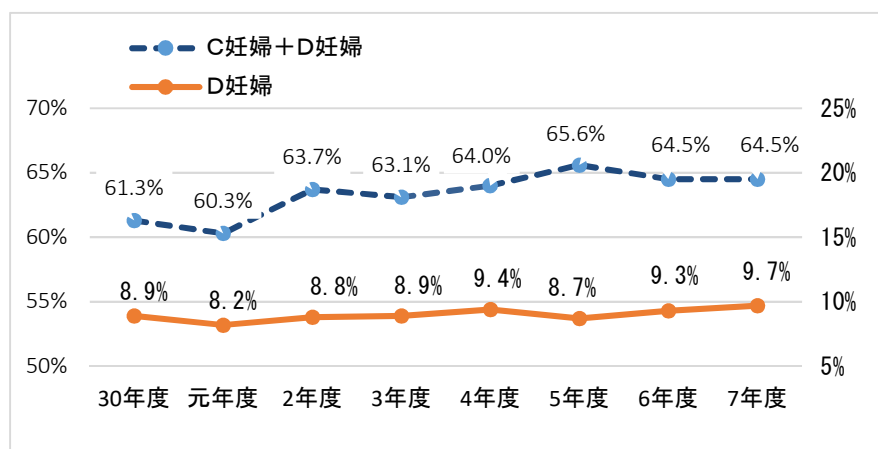
(3) 妊娠届出による支援区分の判定基準と割合

何らかの支援を必要とする人（C妊婦及びD妊婦）の割合は、前年度と同率であった。特に支援を必要とする人（D妊婦）の割合が肥満割合の増（P13「令和7年度妊娠届質問票集計 項目1」参照）により0.4ポイント微増し、継続支援を必要とする人（C妊婦）の割合が0.4ポイント微減した。支援区分の判定基準と支援内容は次のとおり。

支援区分	判定基準	6年度	7年度	増減	支援内容
A妊婦	リスク項目該当なし 通常の母子保健対象妊婦	35.5%	35.5%	±0.0P	—
B妊婦	C妊婦と判定されたが、状況が改善された妊婦（妊娠届出時等では判定なし）				
C妊婦	特定妊婦ではないが、身体的・社会的・心理的等のリスクがあり、継続支援が必要な妊婦	55.2%	54.8%	△0.4P	① 支援計画作成 ② 妊娠期から産後4か月までに3回以上の電話や家庭訪問等を実施
D妊婦	出産後の養育について出産前から特に支援を行うことが必要な特定妊婦	9.3%	9.7%	+0.4P	① 支援計画作成 ② 4回以上の家庭訪問等を実施

(4) 支援が必要な妊婦の年次推移（図2）

図2 支援が必要な妊婦の年次推移



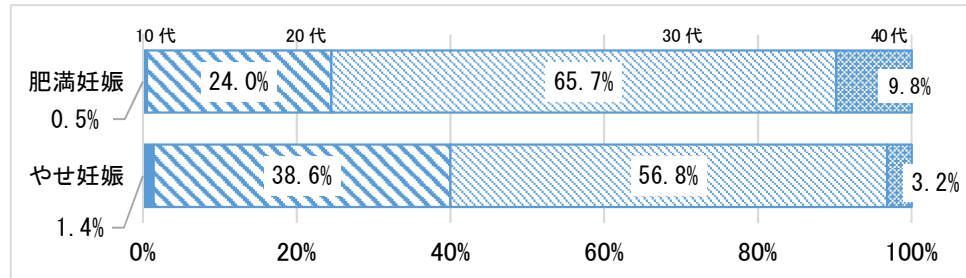
(5) 妊娠届出時のアンケートや面接で把握する24項目のうち該当が多いリスク項目

※ ア（肥満・やせ）、イ（届出時シングル）の割合は、P13「令和7年度妊娠届質問票集計 項目1、2、4」参照

ア 肥満（14.7%）・やせ（11.1%）

若い年代の妊婦は、やせている傾向がある（図3）。

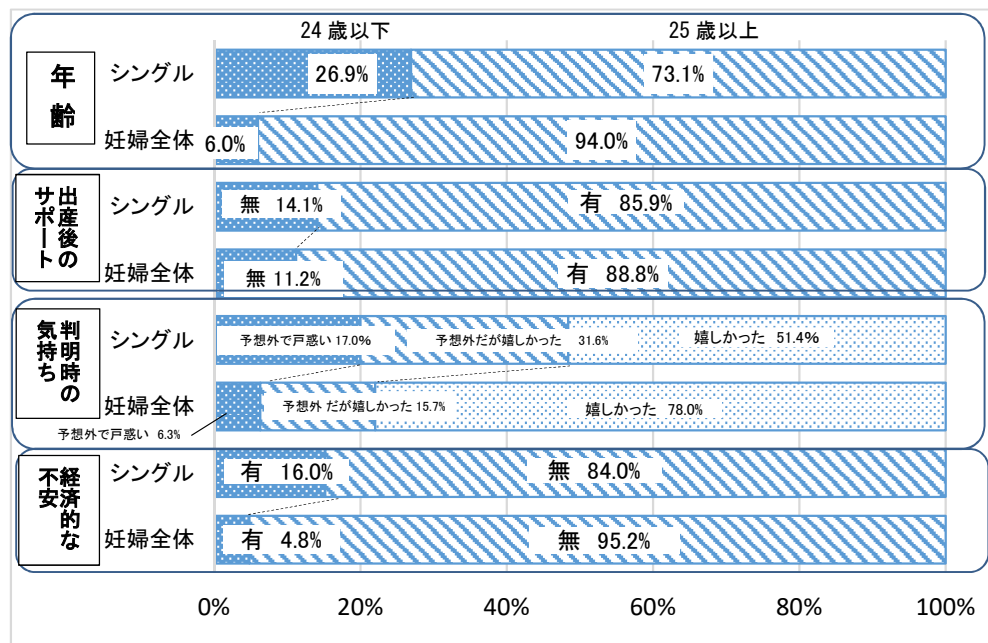
図3 肥満(671人)・やせ(507人)と回答した者の年代別内訳(割合)



イ 届出時シングル【妊娠届出書提出の際、入籍していない妊婦（入籍予定の方も含む）】（12.4%）

妊娠がわかった時に「予想外で戸惑いがあった」割合は届出時シングルの方は17.0%で、妊婦全体の6.3%よりも10.7ポイント、また、経済状況に不安がある妊婦の割合も11.2ポイント高かった（図4）。

図4 主なリスク項目における届出時シングル回答(566人)と妊婦全体の比較(割合)



2 令和7年度の主な伴走型相談支援と経済的支援の実績について

令和7年度より、これまでの国による「出産・子育て応援交付金」を活用した経済的支援から、子ども・子育て支援法に基づく

「妊婦のための支援給付」へ制度化された。

これにより、区では国の交付金によるギフト券の配付から「あだち出産・子育て応援給付金」として現金給付に変更した。

この給付金や東京都の「とうきょうママパパ応援事業」、「東京都出産・子育て応援事業」を活用し、妊娠期から出産・子育て期まで一貫して身近で相談に応じる伴走型相談支援と経済的支援を一体的に実施し、妊娠期から切れ目のない支援を行っている。

(1) あだち出産・子育て応援給付金

ア 出産応援給付金【妊娠時：スマイルママ面接で案内】

(ア) 対象者

令和7年度に妊娠届出をした妊婦

(イ) 支給内容

妊婦一人あたり5万円の現金給付

(ウ) 出産応援給付金支給実績

対 象 者	支 給 額	支給件数	支給割合
令和7年度妊娠届出者	5万円	5,246件	106.7%

※ 支給割合が100%を超えているのは、令和7年度から現金支給に変更することを令和7年3月に案内したことに伴い、令和7年3月までに妊娠した方が、令和7年4月以降に申請したためだと考えられる。

イ 子育て応援給付金【出産時：こんにちは赤ちゃん訪問で案内】

(ア) 対象者

令和7年度に出産した方

(イ) 支給内容

出産した子ども一人あたり5万円の現金給付

※ 多胎児の場合は5万円×出産人数

(ウ) 子育て応援給付金支給実績

対 象 者	支 給 額	支給件数	支給割合
令和7年度に出産した方	5万円／人	3,951件	86.5%

※ 多胎児については、一人当たりの支給を1件として計上

※ 令和8年5月末時点での支給済み件数

(2) こんにちは赤ちゃん訪問

生後3か月までの乳児がいる家庭を訪問指導員（助産師、保健師）が訪問し、新生児の発育・栄養・生活環境・疾病予防等、育児に必要な事項についての指導・助言をしている。

(令和8年5月末現在)

年 度	届出件数	訪問件数	訪問率
令和6年度	4,113件	4,112件	99.9%
令和7年度	4,321件	4,297件	99.4%

基本計画における成果指標、「3～4か月児健康診査時のアンケートで「赤ちゃん訪問を受けて安心した」の設問に「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた親の割合」は、95.5%であった。

(3) ファーストバースデーサポート

成長の節目の年齢となる1歳時にアンケートを郵送して育児状況を把握し、適切なケアにつなげる。アンケートを返送した方には、育児パッケージとして「こども商品券」を支給する。

【アンケートの回答状況】 (令和8年5月末現在)

※ 発送は1歳になるお子さんを毎月抽出

項 目	令和6年度	令和7年度
1 発送数	4,017人	4,386人
2 回答数	3,976人	4,292人
3 有効回答	3,975人	4,268人
4 未回答	41人	94人
5 回答率	99.0%	97.9%

アンケートで「育児について相談できる相手はいますか」の設問に「いる」と答えた割合は、98.0%であった。

【こども商品券支給実績】

項 目		令和6年度	令和7年度
支 給 件 数 合 計		3,975人	4,268人
内 訳	第1子(6万円分)	2,148人	2,355人
	第2子(7万円分)	1,292人	1,375人
	第3子以降(8万円分)	535人	528人
	遡及分(1万円分)	-	10人

(4) 多胎児家庭移動支援

多胎児が0歳・1歳・2歳時に、保健師等が保護者と面接を実施し、育児状況を把握する。面接終了者については、母子保健事業利用時の移動支援として、タクシー利用時に使用できる「こど

も商品券」24,000円分（一世帯あたり）を支給する。

項 目		令和6年度	令和7年度
対 象 者 件 数		127件	202件
面 接 者 数 合 計		121件	180件
内 訳	0歳	55件	76件
	1歳	32件	56件
	2歳	34件	48件
実 施 率		95.3%	89.1%

（５）産後ケア（宿泊型・日帰り型・訪問型）

育児に不安のある方などを対象に、心身のケアや育児サポートを実施しており、7日（回）を上限に利用することができる。

※ 令和7年度より、公益社団法人東京都助産師会による訪問型を開始した。

※ 令和8年度より、自己負担額をこれまでの半額とするとともに、日帰り型実施が2施設から3施設へ増加した。

【自己負担額】

	7年度	8年度
宿泊型	1日5,000円	1日2,500円
日帰り型	1日2,500円	1日1,250円
訪問型	1回2,000円	1回1,000円

ア 施設一覧

施 設 名 称		住 所	宿泊	日帰り
1	待木医院	足立区西竹の塚 2-13-17	○	×
2	東京女子医科大学附属足立医療センター	足立区江北 4-33-1	○	×
3	長門クリニック	足立区中川 2-5-8	○	○
4	横川レディースクリニック	足立区保木間 1-22-15	○	×
5	綾瀬産後ケア	葛飾区小菅 4-8-10	○	○
6	東京かつしか赤十字母子医療センター	葛飾区新宿 3-7-1	○	×
7	スワンレディースクリニック	北区王子 4-27-7	○	×
8	東京リバーサイド病院 (日帰り型を開始)	荒川区南千住 8-4-4	○	○
9	東都文京病院	文京区湯島 3-5-7	○	×

イ 利用状況

項 目		令和6年度	令和7年度
申請者数		1,099人	2,030人
宿泊型	利用者数	448人	637人
	延べ利用日数	2,170日	2,966日
日帰り型	利用者数	29人	67人
	延べ利用日数	74日	103日
訪問型	利用者数	—	316人
	延べ利用日数	—	602回

ウ 利用者アンケート（回答数 241件）

産後ケア施設の利用は全体的に満足の内容だったか。

① とてもよかった	54.0%
② 概ねよかった	37.8%
③ あまりよくなかった	2.5%
④ よくなかった	1.6%
⑤ 無回答	4.1%

※ 低評価の意見では、実施施設の空調設備やスタッフの対応に関するものなどがあった。該当施設には情報提供し、改善を要望した。

※ アンケートの内容の詳細は、P14～15（別紙3）参照

エ その他意見

【感謝】

（ア）出産後の延長で利用。赤ちゃんを預けていて身体を休めることができ、精神的にすごく安定した。産後ケアに救われた。金銭面を気にせず利用でき、こんな区に住んでいて本当に良かった。

（イ）母体の回復と母乳育児に集中することができたので、利用して良かった。正規の金額を見てびっくりした。この事業がなかったら高くして利用しなかったなので、ありがたいです。是非、続けて欲しい。

【要望】

（ウ）施設予約が取りづらいので、実施施設をもっと増やして、もっと選択肢を増やして欲しい。

区側の対応：

令和8年4月から東京リバーサイド病院（日帰り型）の開始及び、すこやかプラザ あだち（デイサー

	ビス型)の実施日を週2日から3日に増加した。 (エ) 自己負担額が他区に比べると高いのではないかと。 区側の対応： 令和8年4月から、自己負担額をこれまでの半額に引き下げ、利用しやすい環境を整えた。 3 今後の方針 (1) 産後ケアについては、国による利用基準の緩和や区独自に自己負担額を引き下げたことにより、利用希望者の増加傾向が続くことが見込まれる。今後も利用しやすい環境を整備していく。 (2) 引き続き、東京都の「とうきょうママパパ応援事業」や「東京都出産・子育て応援事業」、国の「出産・子育て応援給付金」を活用し、伴走型相談支援と経済的支援により、ASMAP事業を着実に実施していく。
--	---

参 考

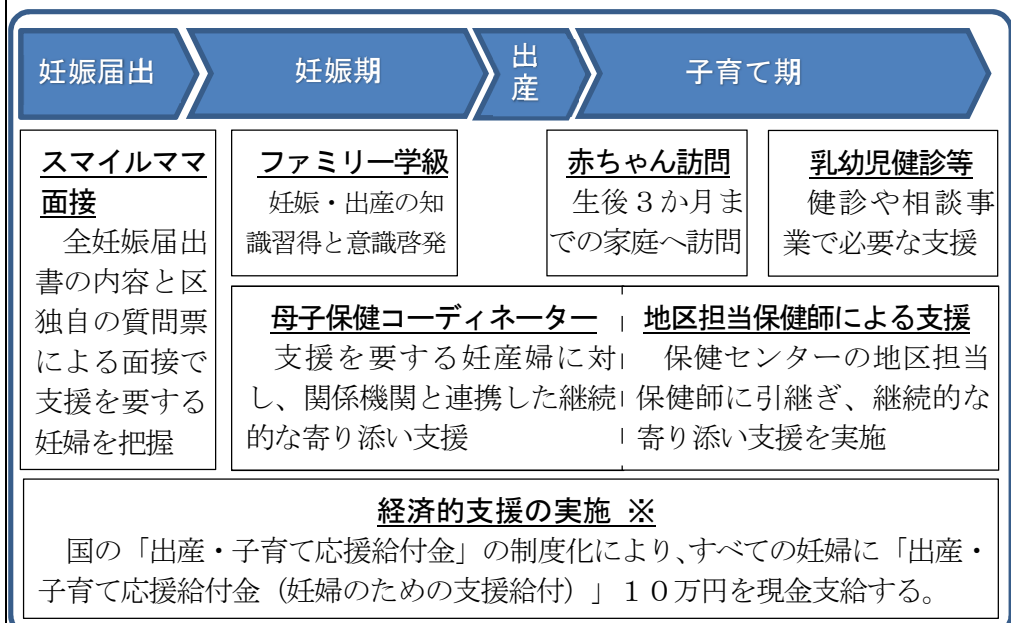
ASMAPの概要は以下のとおり P 1 1（別紙 1）

1 事業開始の経緯

- (1) 平成 2 6 年「子どもの貧困対策に関する法律」が施行した。
- (2) 平成 2 7 年「足立区子どもの貧困対策実施計画」を策定した。
- (3) 平成 2 7 年度から主要事業の 1 つである「妊産婦支援の充実」のため、妊娠届出書に経済的な不安の有無や健康保険の加入状況、援助者の有無など、東京医科歯科大学（現・東京科学大学）と共同で開発した区独自の質問票を導入し、支援を要する世帯を把握した。
- (4) 平成 2 8 年度から特に支援を要する世帯に対し、妊娠期から切れ目のない支援を行うため母子保健コーディネーター（保健師）を配置し、現在は保健予防課に 7 名在籍している。

2 事業内容

養育困難や生活困窮を未然に防ぐため、すべての妊産婦に対し、相談や経済的支援を通じ、以下のように妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施している。



※ 東京都は、独自事業として「赤ちゃんファーストギフト」（10万円分のカatalogギフト）を令和 7 年度から開始

令和 8 年 1 月 1 日から令和 9 年 3 月 3 1 日までの出生については、3 万円を加算

あだち スマイル ママ&エンジェル プロジェクト

A S M A P

母子保健コーディネーターが妊娠期から切れ目ない支援を実現し、母子ともに健やかに笑顔で暮らせるあだちを目指す

気づく

妊娠届出書の内容等から支援を要する妊婦を把握

気づきのしくみづくり

- 母子保健コーディネーターや地区担当保健師が妊娠届出時の内容や区独自の質問票を確認。さらにスマイルママ面接事業で全妊婦と面談し、支援区分をABCDの4段階で判定。妊娠中の身体管理や産後の育児困難、生活困窮が予想される妊婦を把握する。特に支援を要する特定妊婦(D妊婦)は母子保健コーディネーターがサポートを行う。
- 医療機関が身体管理や育児困難、生活困窮が予想される妊婦を診察した際に、各保健センター等に情報提供してもらう仕組みを構築。

妊 娠 中

支える

面接・訪問を実施し、個別の状況に合わせた、支援計画を作成

支援レベルの確認及び支援

- A妊婦:** 妊娠届出内容により状況を確認し、妊娠期の継続支援は必要ない者
- B妊婦:** C妊婦と判定されたが、状況が改善された者
- C妊婦:** 電話及び訪問での状況確認後、身体的・心理的な継続支援が必要な者
→ 支援計画作成
→ 妊娠期と産後に3回以上の電話や家庭訪問を実施
- D妊婦:** 出産前後で継続支援が特に必要な者
→ 支援計画作成
→ 妊娠期と産後に4回以上の家庭訪問を実施

つなぐ

支援計画に基づき、関係機関と連携協力し、早期に適切な対応

連携体制の構築

こども家庭相談課、福祉事務所、福祉まるごと相談課、医療機関、保育施設や子育て支援NPO等の関係機関と連携した早期の対応で、育児困難状態を未然に防ぐ。

【連携事例】

- こども家庭相談課と支援対象者の情報共有
- 産婦人科に妊婦健診同行受診
- 福祉事務所に生活保護相談の同行
- 子育て支援事業等の紹介
- 保育施設入所手続き説明
- 医療機関とのカンファレンス
- 産後ケア施設からの情報提供等

見守る

保健師等が、母子保健事業の様々な機会に、支援対象者の育児や生活状況を確認、支援・見守りを継続

支援状況の確認

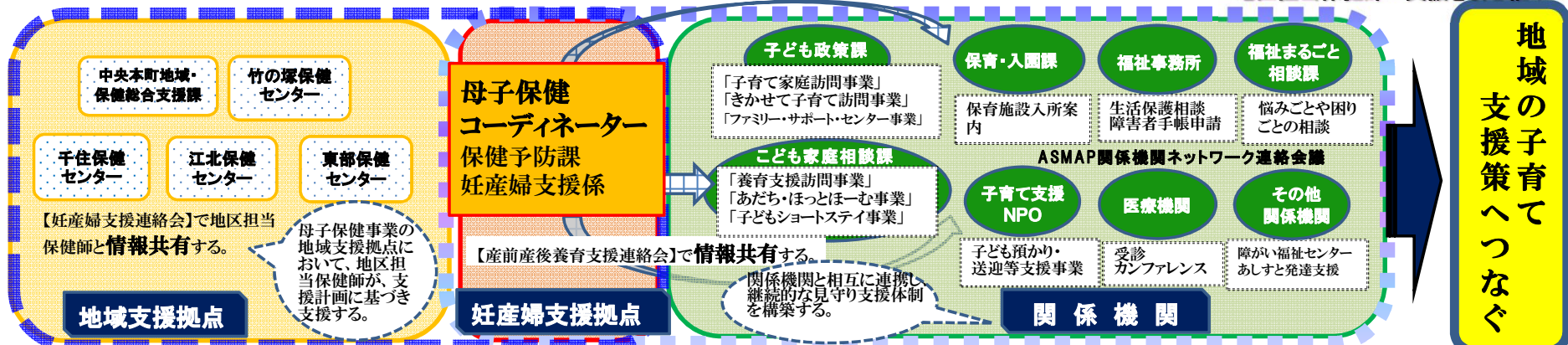
- 保健師等がファミリー学級、こんには赤ちゃん訪問、産後ケア、乳幼児健診、ファーストバースデーサポート(1歳時)、健やか親子相談、多胎児家庭移動支援事業などの機会を捉えて、支援対象妊産婦やその子どもの育児や生活状況を確認し、支援・見守りを継続する。
- 新たに支援が必要な妊産婦や子どもを早期に把握し、関係機関と連携して、支援を実施する。

※ 母子保健コーディネーター、地区担当保健師及び関係機関等が様々な機会に、支援対象者と顔を合わせて声をかけ、必要な時にいつでも支援できるネットワークを構築

出 産 後

母子保健コーディネーターを中心に支援を実施

地区担当保健師へ支援を引き継ぐ

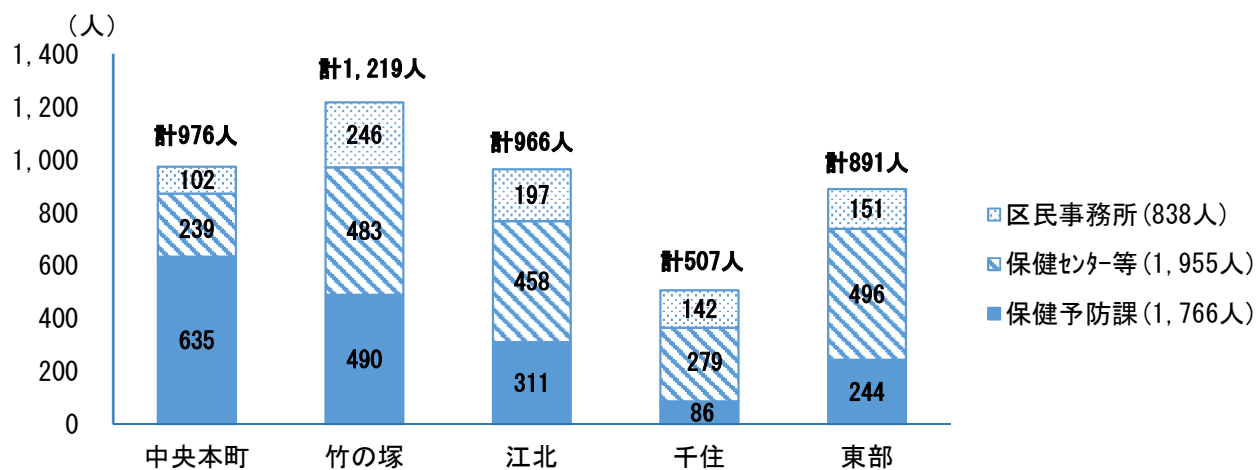


● 令和 7 年度妊娠届対応実績 <区全体> ●

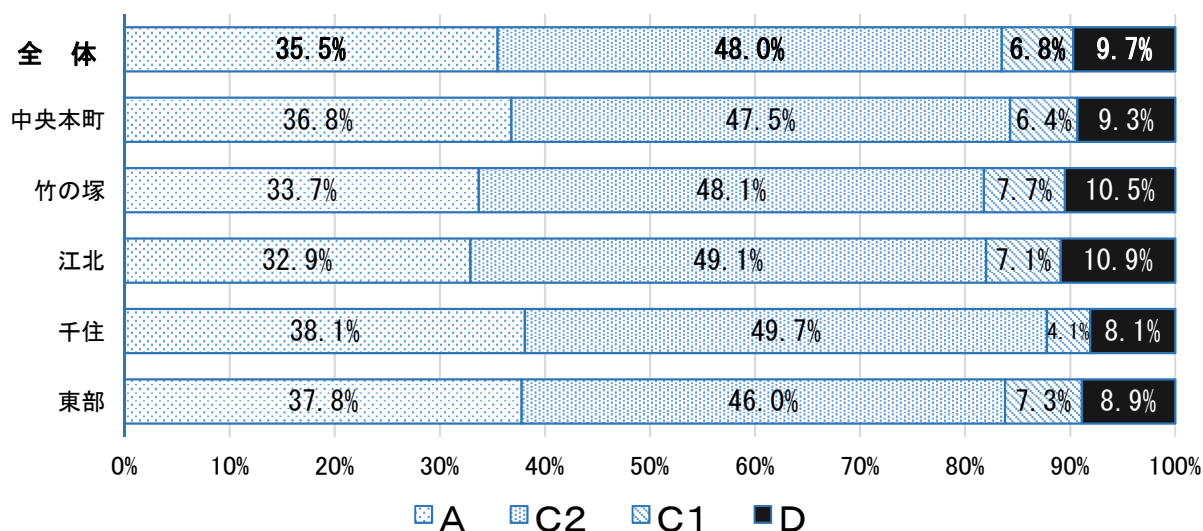
【妊娠届出場所別】総数 4,559 人

届出場所	届出人数	7 年度割合(%)	6 年度割合(%)
保健予防課	1,766	38.7	42.1
保健センター	1,955	42.9	36.0
区民事務所	838	18.4	21.9
計	4,559	100	100

【妊娠届出場所・保健センター等管轄別人数】総数 4,559 人



【保健センター等管轄別妊婦支援区分】



<支援区分>

A : リスク項目該当なし 通常の母子保健対象妊婦

C 2 : 主に身体的リスクがあり助産師の保健指導を要する妊婦

C 1 : 特定妊婦ではないが、社会的・心理的リスクがあり保健師の継続支援が必要な妊婦

D : 出産後の養育について出産前に支援を行うことが必要な特定妊婦

(*) 区分Bは、その後のフォローにより継続支援が必要なしと判断された区分のため、初回面接時には該当者はいない。

令和7年度 妊娠届 質問票集計 <区全体>

質問票リスク項目		中央	竹の塚	江北	千住	東部	計	割合	6年度 割合
1	BMI 25以上（肥満）	144	187	165	45	130	671	14.7%	12.4%
2	届出時シングル	139	155	142	47	83	566	12.4%	12.3%
3	出産後のサポートがない	107	134	97	51	122	511	11.2%	10.9%
4	BMI 18.5未満（やせ）	111	134	107	63	92	507	11.1%	12.6%
5	予想外の妊娠で戸惑った・困った	55	74	59	32	67	287	6.3%	6.7%
6	20～24歳	60	85	69	17	51	282	6.2%	6.2%
7	精神以外要支援の病気	50	81	70	27	53	281	6.2%	5.4%
8	その他（心身の体調不良等）	42	90	62	30	48	272	6.0%	6.5%
9	精神科治療中・既往あり	49	74	64	24	50	261	5.7%	5.4%
10	経済不安	49	72	43	13	42	219	4.8%	4.8%
11	前回の妊娠・出産の異常	52	52	45	27	44	220	4.8%	5.2%
12	多産（4回以上妊娠）	35	51	49	16	25	176	3.9%	3.4%
13	上の子や家族のことで心配あり	33	46	35	20	38	172	3.8%	4.3%
14	困った時の助けなし	18	37	29	12	31	127	2.8%	3.4%
15	支援の必要な外国人	24	56	19	4	20	123	2.7%	2.4%
16	40歳以上の初妊	16	20	13	10	18	77	1.7%	1.9%
17	多胎 双子以上	12	15	14	11	22	74	1.6%	1.2%
18	第1子若年出産	10	28	19	4	12	73	1.6%	1.4%
19	本人の喫煙	14	14	15	6	7	56	1.2%	1.3%
20	妊娠届20週以降	9	8	17	2	9	45	1.0%	0.8%
21	生保・保険なし	10	14	12	1	7	44	1.0%	0.8%
22	若年 20歳未満	7	18	13	2	3	43	0.9%	0.6%
23	本人の飲酒	6	10	6	5	7	34	0.7%	0.8%
24	関係機関連絡・DV・虐待	6	5	8	0	2	21	0.5%	0.5%

妊娠届 総数	976	1,219	966	507	891	4,559
--------	-----	-------	-----	-----	-----	-------

※ アンケートは複数回答可能

※ 割合は、妊娠届出件数（4,559件）に対する割合

令和 7 年度産後ケアの利用者アンケート結果

宿泊型産後ケア利用者アンケート

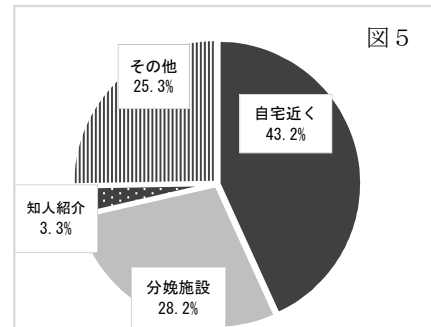
回答数 241名

1 この事業を何で知りましたか（重複ありのため上位のみ）。

- ① スマイルママ面接 52.3%
- ② 区ホームページ 31.1%
- ③ 実施施設からの案内 19.1%

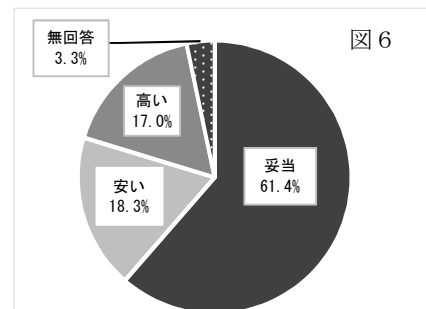
2 今回の利用施設を選んだ理由は何ですか（図 5）。

- ① 自宅に近い 43.2%
- ② 分娩施設 28.2%
- ③ 知人等からの紹介 3.3%
- ④ その他 25.3%



3 自己負担金（1日5,000円）は妥当でしたか（図 6）。

- ① 妥当 61.4%
- ② 安い 18.3%
- ③ 高い 17.0%
- ④ 無回答 3.3%

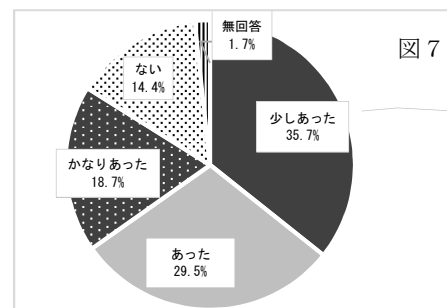


4 どんなことを目的として利用したいと思いましたか（重複ありのため上位のみ）。

- ① 休養・疲労回復 84.2%
- ② 授乳に関する相談・乳房ケア 61.8%
- ③ 育児に関する助言・相談 43.6%

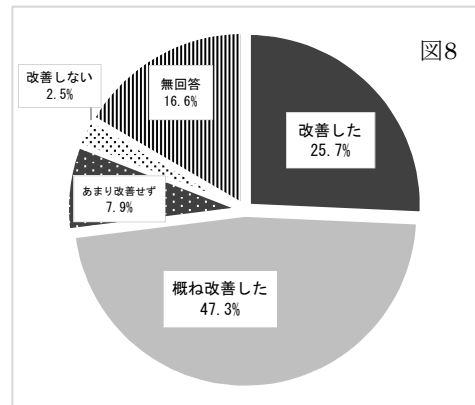
5 出産後、体調不良や育児不安、精神的に不安定になったことはありましたか（図 7）。

- ① 少しあった 35.7%
- ② あった 29.5%
- ③ かなりあった 18.7%
- ④ ない 14.4%
- ⑤ 無回答 1.7%



6 産後ケアを利用したことで、不調や不安は改善されましたか（図8）。

- | | |
|---------------|-------|
| ① 改善された | 25.7% |
| ② 概ね改善された | 47.3% |
| ③ あまり改善されなかった | 7.9% |
| ④ 改善されなかった | 2.5% |
| ⑤ 無回答 | 16.6% |



7 今回の産後ケア施設の利用は、全体的に満足のいく内容でしたか（図9）。

- | | |
|-------------|-------|
| ① とてもよかった | 54.0% |
| ② 概ねよかった | 37.8% |
| ③ あまりよくなかった | 2.5% |
| ④ よくなかった | 1.6% |
| ⑤ 無回答 | 4.1% |

